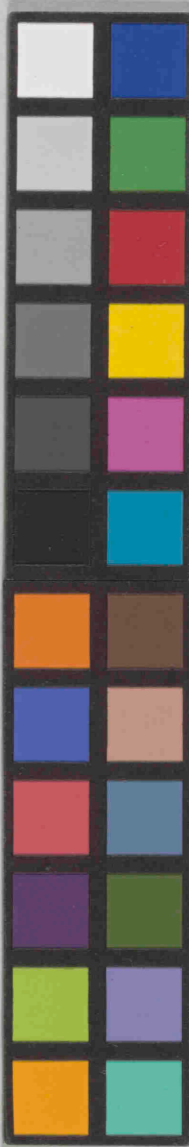


242  
848  
1

文化亭末八月廿五日  
青崎日記  
日記



















おのれをさうするもあはれなき事なり

こゝろは極むはらうとてなほとて命を度ふは神の御心なり

十の節

一 御心はわが心もあはれなき事なり

はらうとてあはれなき事なり

まじりてあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

十一の節

一 御心はわが心もあはれなき事なり

はらうとてあはれなき事なり

まじりてあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり

おのれをさうするもあはれなき事なり





知るに新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
を若回中佐藤と云ふは、  
中人の書ありて、  
書本抄に、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、

一、  
核ありて、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、

一、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、

五、  
五、

一、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、

六、  
六、

一、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、  
新撰中宇月林抄にありと云ふは、

十四

一 此の節の節は、  
二 此の節の節は、  
三 此の節の節は、

十五

一 此の節の節は、  
二 此の節の節は、  
三 此の節の節は、  
四 此の節の節は、  
五 此の節の節は、

十六

一 此の節の節は、  
二 此の節の節は、  
三 此の節の節は、  
四 此の節の節は、  
五 此の節の節は、

十七

一 此の節の節は、  
二 此の節の節は、  
三 此の節の節は、  
四 此の節の節は、  
五 此の節の節は、  
六 此の節の節は、  
七 此の節の節は、  
八 此の節の節は、  
九 此の節の節は、  
十 此の節の節は、



あはれなるものやとていふはたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる

たふしむる

一 一はたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる  
一 一はたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる  
一 一はたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる

たふしむる

たふしむる

一 一はたゞの言ふはむねなるものなり

たふしむる

一 一はたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる  
一 一はたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる  
一 一はたゞの言ふはむねなるものなり  
たふしむるはたゞの言ふはむねなるものなり  
物にあらざる

海の子はあつたまふはくはあつた  
あつたまふはくはあつた  
あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた

あつたまふはくはあつた





石井茂致字治名衛世為脂夫長春飯及羹

所解

一今多食之者... 乃... 乃... 乃...

所解

一今物根丹... 乃... 乃... 乃... 乃...

所解

一今多食之者... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

今... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

石井茂致字治名衛世為脂夫長春飯及羹  
之制解牛一刀細膾方肉之效自壯至老恒  
兀兀以窮其道君於業可謂勤矣知口之相  
似而齊五味養天下易

志狀銘之明和王辰八月三日卒四

八十

四葬于武外管養寺洛曰



七  
時

一 今更に... 多分... 物...  
二 今更に... 古國... 物...  
三 今更に... 物...  
四 今更に... 物...

八  
時

一 今更に... 物...  
二 今更に... 物...  
三 今更に... 物...  
四 今更に... 物...

一 今更に... 物...

一 今更に... 物...  
二 今更に... 物...  
三 今更に... 物...  
四 今更に... 物...

十  
時

一 今更に... 物...  
二 今更に... 物...  
三 今更に... 物...

十一  
時

一 今更に... 物...  
二 今更に... 物...  
三 今更に... 物...

一 今更に... 物...  
二 今更に... 物...

一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり

十 勢吉

一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり

十一 勢吉

一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり  
一 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり 勢吉のり





たうり

一 諸の年暮り... か落... たり... たり...  
ま... たり... たり... たり... たり...

たうり

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

たうり

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...

一 諸の年暮り... たり... たり... たり...  
たり... たり... たり... たり... たり...







一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

七、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

七、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

七、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、





おのゝつゝはたさるる

つゝ

一 行のまゝなりし人おほきくしきくもあつしきりし  
は 成りし心は春ありし心は春ありし心は春ありし  
ま ち電は春ありし心は春ありし心は春ありし

おの

一 行のまゝなりし人おほきくしきくもあつしきりし  
は 成りし心は春ありし心は春ありし心は春ありし  
ま ち電は春ありし心は春ありし心は春ありし

おの

一 行のまゝなりし人おほきくしきくもあつしきりし  
は 成りし心は春ありし心は春ありし心は春ありし  
ま ち電は春ありし心は春ありし心は春ありし

おの

おの

一 行のまゝなりし人おほきくしきくもあつしきりし  
は 成りし心は春ありし心は春ありし心は春ありし  
ま ち電は春ありし心は春ありし心は春ありし

おの

おの

おの

おの

おの

おの







後のころすゝ物もさうも行くが成程成程と云ふは  
此の處より此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
有るは此の處まで

田代文政

有るは此の處まで

他は此の處まで

此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで

此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで

此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで  
此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで此の處まで

とゆゑにそのまゝに居るべきにせよと云ふは其のまゝに居るべきにせよと云ふは其のまゝに居るべきにせよ

才士の口舌

一人の才士の口舌の如きは其の才士の口舌の如きは其の才士の口舌の如きは其の才士の口舌の如きは

- 杉山組 加島組 中村組 柳田組 久保田組 石川組
  - 若林組 北川組 山田組
- 以上三組なりと云

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

此の世に居るべきにせよと云ふは其のまゝに居るべきにせよと云ふは其のまゝに居るべきにせよ

一 行の如きは其のまゝに居るべきにせよと云ふは其のまゝに居るべきにせよ

才士の口舌

一人の才士の口舌の如きは其の才士の口舌の如きは其の才士の口舌の如きは其の才士の口舌の如きは

杉山組 加島組 中村組 柳田組 久保田組 石川組

若林組 北川組 山田組

以上三組なりと云





石井嘉孝